

平成27年春の外国人叙勲 ナンシー・ペロース下院民主党院内総務・元下院議長の旭日大綬章受章

平成27年4月28日
在米国日本大使館

平成27年4月29日（日本時間）、日本政府は、平成27年春の外国人叙勲として85名の受章者を発表し、この中でナンシー・ペロース米連邦下院民主党院内総務・元下院議長が叙勲されることが公表されました。同氏は、下院議長時代に、被爆地広島へ現職の最高位の米国要人として歴史的な訪問を行ったこと等、日米関係の発展・深化に寄与した功績が認められ、戦後70周年の節目となる本年、旭日大綬章を受章することとなりました。

- 賞賜： 旭日大綬章
- 功績概要： 現職最高位の米国要人としての被爆地広島訪問等により日米関係の発展・深化に寄与
- 氏名： ナンシー・ペロース（Nancy Pelosi）
- 主要経歴：
 - 元 連邦下院議長
 - 現 連邦下院民主党院内総務（下院民主党序列第1位）
 - 現 連邦下院議員

ペロース院内総務は、平成19年から平成23年にかけて米国史上初の女性連邦下院議長を務め、かつ平成15年以降現在に至るまで10年以上にわたり下院民主党の最高指導者であり、バラク・オバマ大統領からも「アメリカ国民にとって並外れたリーダー」と称賛されるなど、米国政界において最も強い影響力を有する女性政治家の一人です。

ペロース氏は、昭和62年に連邦下院議員に初当選して以来27年にわたり、サンフランシスコ市日本町を含む地区を選挙区とし、日系米国人の地位向上に努めてきました。例えば、初当選直後の昭和62年、第二次世界大戦中に迫害された日系米国人に対する米国政府の謝罪と賠償を内容とする「市民自由法案」の共同提案者として同法案の成立に尽力しました。また、第二次世界大戦中に活躍した日系米国人部隊の地位向上や、サンフランシスコ市日本町における低所得者向け施設の再建、日系米国人団体の活動など

を支援してきました。

ペローシ氏は、平成19年1月に米国史上初の女性連邦下院議長に就任しました。米国において連邦下院議長は副大統領に次ぐ大統領継承順位第2位の要職です。就任わずか5か月後には、訪米した安倍総理を迎え、他国の首脳訪問時の例に比して稀なほどに蒼々たる顔ぶれの連邦議会上下両院指導部を中心とする出席者を招集し、有意義な会談を主催しました。

同年、ペローシ下院議長（当時）は河野洋平衆議院議長（当時）との会談において、河野議長から次期G8下院議長会議の被爆地広島での開催の可能性について内々打診を受け、これに賛同を示しました。河野議長は後日行われたインタビューにおいて、他のどの議長よりも先にペローシ下院議長に広島開催につき打診し、仮に難色を示されたら他の都市で開催する用意もあったと語っています。原爆に関する米国内の世論に鑑みれば、要職にあったペローシ下院議長としては極めて重大な決断でしたが、この打診を快諾し、ペローシ下院議長は2008年9月、現職の最高位の米国要人として被爆地広島への歴史的な訪問を行うこととなりました。

ペローシ氏はその後、平成23年に下院議長職を離れますが、引き続き下院民主党院内総務（下院民主党序列第1位）に就任し、現在に至るまで民主党最高指導者として大きな影響力を有しています。議長退任後も、広島訪問はペローシ院内総務にとって重要な経験となっており、日米関係の発展に取り組む原動力となっています。本年4月にも、ペローシ院内総務は他の連邦下院議員9名とともに日本を訪れ、安倍総理を表敬しました。

本年は戦後70周年という節目の年に当たります。戦後、日本は新たな出発を果たし、かつて戦火を交えた米国との同盟関係を基軸としながら、現在の国際社会において確固たる地位を築くに至りました。第二次世界大戦やその後の我が国の平和国家としての歩みを振り返る中で、米国最高位の要人として被爆地広島を訪問したという功績を有するペローシ院内総務が戦後70周年という意義深い年に旭日大綬章を受章することにより、日米関係が今後一層発展・深化していくことが期待されます。

（了）